

PATENT Attorney®

パテント・アトニー

春

VOL. 57

日本弁理士会広報誌

2010

●「PATENT ATTORNEY」は「弁理士」のことです。

●特許調査よもやま話 ●ジャーナリスト「ぼれ話」
●弁理士風土記(京都) ●シリーズ特産品(草加せんべい)
●知的財産権なんでもQ&A ●漫画「なすびくんのお仕事」
●特許庁からのお知らせ ●JPAA Information



知的財産権なんでもQ&A

Q 私の著作した著作物を他人に無断でしようされない方法を教えて下さい。

●福岡県／伝統文化・地域史研究者(37歳)

A 「著作権法上、一定の要件を満たせば、他の方が執筆された文章等を引用することが認められています(著作権法32条)。「引用が認められる」ということは、裏を返せば「無断で使用する行為を防ぐことができない」ともいえます。また、個人的な使用も認められています。ただ、牽制をかける方法は考えられます。例えば、「無断複製を禁ず」といった記載を施す手段が一般に使

われています。他に、著作権法上の侵害行為を記載し注意喚起を行うことや、許諾を受けるための連絡手段を明示することが有効と思われます。

使用する側としては、違法行為と認知していない場合と、知りながら使用場合があります。前者に対しては、注意喚起が有効であり、後者に対しては、権利者側の侵害に対する姿勢を明らかにすることで、使用の差し控えを促すことができます。」

◎このコーナーでは知的財産権に関する皆さまの質問にお答えします。質問事項を記載して、下記の住所にハガキまたはFAX.03-3519-2706で日本弁理士会 広報・支援・評価室「Q&A係」までお送りください。



特許庁からのお知らせ

4月18日は「発明の日」

●「発明の日」の由来

1885年(明治18年)4月18日、専売特許条例(現在の「特許法」)が公布され、日本の特許制度が制定されました。これ以降、多くの発明家の創作意欲がかきたてられて技術が飛躍的に向上し、我が国産業の発展に大きな役割を果たしてきました。

この公布の日を記念して、産業財産権制度(特許、実用新案、意匠、商標制度の総称)の普及・啓発を図ることを目的に、1954年(昭和29年)に「発明の日」が制定されました。

●今年125周年

今年は、専売特許条例の公布から125周年を迎えます。特許庁では、125周年を記念して、あらためて産業財産権の重要性を理解していただくために、著名な発明者等から、若者に向けたメッセージをHPで発信していくなどの事業を行っていくと考えています。

ご不明な点がございましたら、特許庁総務課広報班(03-3581-1101(代)／内線2108)までお問い合わせ下さい。



PATENT ATTORNEY [パテント・アトニー]
●平成22年3月19日発行 第57号 ●無断転載禁止 ●編集/日本弁理士会広報センター ●発行/日本弁理士会
●〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-4-2 ●電話 03-3581-1211(代) ●FAX 03-3581-9188

「弁理士Info」 「ヒット商品を支えた知的財産権」 のご案内

知的財産権制度と弁理士の業務について、イラストや図を使ってわかりやすく解説したパンフレット「弁理士Info」及び季刊誌「パテント・アトニー」のヒット商品を支えた知的財産権と題して連載してきた内容を1冊にまとめた「ヒット商品はこうして生まれた!」等のパンフレットがあります。

一般の方には原則として無料で差し上げております。(送料は当会で負担します)

ご希望の方は、下記ご連絡先までお問い合わせください。

◆連絡先 広報・支援・評価室◆
ご希望のパンフレット名と部数、ご送付先、お電話番号を明記の上、下記までお申込みください。
FAX: 03-3519-2706
mail: panf@jpaa.or.jp



シリーズ「特産品」JAPAN「草加せんべい」

商標登録 第5053366号

草加せんべいは、古くから日光街道の草加宿付近の名物として知られていました。草加は「米どころ」として稲作農耕が盛んであったため良質な米と水があり、加えて醤油が身近にあったため、明治から大正にかけて地場産業として盛んに製造されるようになりました。現在も草加市内には約60軒のせんべい製造所や販売所があります。

「パリッ」とした食感・お米のうまみ・醤油のかおりが草加せんべいの特徴です。米粉を練り伸ばして型抜きし、乾燥させて生地を作り、その生地を草加せんべい独特の押瓦で焼きむらなく風味よく焼いて製造されます。現在は機械化されつつありますが、昔ながらの天日干しや手焼きも行われています。是非とも一度ご賞味ください。

また、品質の管理と安全性の確保への取り組みにより、原材料・製法へのこだわりの証である(財)食品産業センターの地域食品ブランド表示基準制度「本場の本物」にも平成18年に認定されています。



このコーナーに掲載御希望の方は、「特産品」のプロフィール・連絡先をFAX:03-3519-2706までお送りください。

祇園祭



シリーズ

31

弁理士風土記

(京都)

特許業務法人みのり特許事務所
弁理士 重本 博充

1200年を超える伝統を誇る古都、京都。世界文化遺産登録の各寺院をはじめとする古社名刹の境内は、四季を通じ桜、新緑、紅葉と様々な表情を見せ、多くの来訪客を魅了しています。工芸品や伝統産品も当然数多く、商標関係を見ても、地域団体商標制度導入時には全国トップクラスの出願、登録数となっています。

このように、伝統文化面がクローズアップされる一方で、大学も数多い京都は、最先端の研究拠点となっている側面を持っています。また歴代の都人は、伝統文化を重んじつつも、それらを現代に活かしながら発展させるという柔軟性を持ち合わせています。科学技術関連で社会に貢献している現在の大企業にも、スタートは京都発ベンチャーからだったというケースが数多くあるのはその現われかも知れません。

産業財産権の保護には府、市ともに積極策を講じており、産官学連携の推進についても大学発ベンチャーの誕生など、多様な成果が見られます。

私をはじめ京都地区会所属の弁理士はそれぞれの所属先で、こうした魅力の集合体とも言える京都を知財面からサポートしています。修学旅行以来訪れてないな、と言う貴方も、大人になった今、季節を問わず魅力満載の京都に早速、足をお運びください。



能装束

ヒット商品は、こうして生まれた!

ヒット商品を支えた知的財産権

VOL.

57

21世紀のお守り

「ココセコム」

特許 第4302474号
第3886455号 ほか
意匠登録 第1212442号
商標登録 第4634492号 ほか



セコム株式会社の「ココセコム」は、対象者が所持したり、車などに搭載した専用端末の位置情報を提供し、さらに必要に応じて同社の対応員が現場急行して対象を救援あるいは捜索するサービスである。

自動車などの盗難、子どもの誘拐、高齢者の徘徊などが社会問題となっていた1990年代後半、屋外でのセキュリティサービス開発のため、同社は世界中の測位技術をリサーチしていた。従来のオンラインセキュリティサービスでは、警備対象は固定的な場所であるのに対し、屋外の警備対象となる車や人は動く。その位置を正確にキャッチする、新たな技術が必要だった。「21世紀のお守り」をテーマにしたシステムの実現には、小型・低消費電力・高感度な専用端末と、高精度かつ日本全国で利用できるサービスの仕組みを準備しなければならなかった。

2000年5月、米・クアルコム社がGPSと携帯電話の電波を使った測位精度の高い技術を開発すると、

同社はすぐさま技術協力をとりつけ、わずか10ヵ月先のサービス提供開始を目指した。携帯電話とは異なり、位置情報提供に必要な機能に絞り込んだ専用端末を設計する必要がある。位置情報受信の仕組みから、発見後の人的対応まで含めた、技術と人が関わる複雑なプロセスの構築も並行して進めなければならぬ。当初3人で始まった開発は、あつという間に社内のみならず外部の巻き込んだプロジェクトになった。「GPSを使った世界初の商用サービスを始める意義、その熱意を協力企業を含めた開発スタッフに伝えました」と技術開発本部開発センター通信Gのチーフエンジニア・寺本浩之さんは振り返る。

しかし、同年11月にできた最初の端末試作器は、まともに測位する事もおぼつかなかった。ようやく測位システムが動くようになったのは年末で、年明け早々から開発メンバーによる全国規模の測位実験に入ったものの、今度は満足な精度を得られない問題にぶつか

る。狭い地域に携帯電話設備が密集する日本では、アメリカで開発したシステムをそのまま適用できなかった事が原因で、ここからさらに日本の環境へ最適化するシステムの開発を進める事になるが、この間4月のサービス開始延期の声はどこからも出なかったという。そして、ついに当初の目標どおり、2001年4月にサービス提供がスタートした。

開発と同じスピードが知的財産の確保にも求められる。技術開発本部技術管理室知的財産G・中村俊則さんは「各知財部員が自分の問題として捉え、開発と一緒に行きながら」対応しているという。「走っている開発に、知財がブレーキをかけるわけにはいかない」という強い思いによる。「サービス業にとつて、第1に守るべきはブランド。似て非なるものが出たときにブランドを守るのが知財」だと中村さんはいう。端末の使いやすさ、低料金に加え、同社のブランド力によって、「ココセコム」は屋外セキュリティの分野で高い支持を得ている。

特許調査もやま話

「永久運動の発明であると主張して特許出願をすると、自然法則を利用した技術的思想の創作ではない(すなわち、発明の定義に該当しない。)として拒絶されますが、そのような特許出願は結構多いものです。この種の発明に対しては、いくつかの国際特許分類が用意されていて、機械的なものはF03G7/10(永久運動といわれるもの)に、流体力学的なものはF03B17/04(永久運動といわれるもの)に、電気的なものはH02K53/00(永久運動を行なう回転電機であると主張

するもの)またはH02N11/00(他に分類されない発電機または電動機;電氣的または磁氣的手段により永久運動を得たと主張するもの)に分類されます。最初の三つの分類は永久運動だけが分類されますので、この三つの国際特許分類のいずれかが付与されている特許出願を、特許電子図書館の特許・実用新案検索の公報テキスト検索で「公開特許公報」を指定して検索すると727件がヒットします(2010年2月現在)。一方、「特許公報」(特許になっているもの)を検索すると、驚くことに5件がヒットします。永久運動について特許が付与された訳ではないと思いますが、調べてみれば面白いかもしれません。(弁理士 鈴木利之)

ジャーナリズムこぼれ話

人それぞれ

「蓼食う虫も好き好き」

とはいいが、世の中の科学者は本当に様々な研究に取り組んでいる。ふつうに考えて、その数は解明されていない物事の数よりも少ない。文明が発達した現代であっても、わかっていない事は二握りなのだろう。

勿論、百年前より今、昨日より今日の方が謎は解明されている。それは次々と発表されている研究成果の量を見れば理解できる。事実、百年前より今の方が、少なくとも日本では、人々の生活は格段に便利になった。それに伴い新たな問題が起きる事もあるが、それを解決するのもまた科学者だ。

ある機関が行った「科学者のイメージ」についての国民調査では、良いイメージを持っている人の数は、悪いイメージを持っている人の数より多かった。問題の解決に真摯に向き合うことや、日本の技術力を支えて来た功績を良いとし、浮世離れを悪いとする意見があったという。世の中に善い人とそうでない人がいるように、科学者も様々だろう。でも、最近では心配になるほど浮世離れした科学者は見ないように思う。

(鈴木)

